

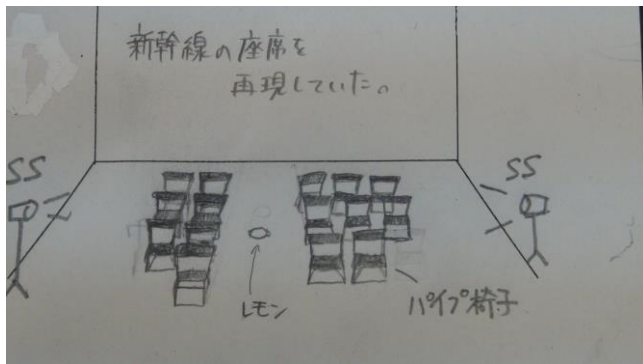
## 刈谷東高等学校

## 名古屋—新大阪

作：兵藤友彦

## ◇概要◇

新幹線の客室が舞台です。名古屋に着いた列車が動き出し、一時間弱で新大阪駅に到着するまでの客室の様子を描きます。名古屋から一組の姉妹が乗ってきますが、彼女たちが主役というわけではありません。同じ客室に乗っている、すべての人が主役の芝居です。人生に主役も脇役もありません。みんな、各々の人生を抱えて必死で生きている主役ですから。



## ◇メッセージカードより◇

- ・非常にリアルな空間を作られていて引き込まれました。梶井基次郎の「檸檬」という小説の中から一部の文章がセリフにもなっていましたが小説が好きなこともあいまって、この劇が好きになりました。
- ・独特な雰囲気、キャラクターの個性を仕草で表すのがとても上手で、動作だけで深みのある劇は初めてでその世界観にのめりこんでしまいました。
- ・60分間の新幹線の中、独白の他にはほとんど台詞がなく、その独白と演者の動きが繋がって個々の人間が際立っていたのが印象的です。妹が下車した後、姉が何ら違和感なく車内に溶け込んでいてぞっとしました。
- ・同じ電車に乗っているのに人の感情などすれ違いに気づけないという事が身に染みて伝わってきました。

## ◇楽屋インタビュー◇

## Q1. 演出で気を付けたところは？

A. ラストに客席に光を当てることにより舞台上の光が当たった人たちのように客席の人たちも同じように内面で苦しんでいるかもしれない、という事を表しました。

## Q2. 4人の役者が席から立ったシーンは何を表していたのか。

A. 全員の心の中、そして内面の汚さ、日常など、全てです。そのシーンの曲はトム・ウェイツの「トム・トラバーツ・ブルース」です。

## Q3. 「人間の在りよう」の表現の為に工夫したところは？

A. 自分と重なるところがあって、苦しみながらも共感して重なる部分を意識して演技しました。

## Q4. 台詞がない人物がいましたが何故ですか？

A. 黒い本で表している心を隠している人もいるのではないかと、また、内面に何もいない人もいないかという考えからこの人物を作りました。

## Q5. レモンは何の象徴？

A. レモンは人間のバラバラで汚い内面と対比されているきれいな存在で、レモンがその汚さを吸収し、皆のバラバラさをつなげる存在でした。



【速報担当】秋田 実咲 石田 唯(高志)

※ 刈谷東高等学校のみなさん お疲れ様でした！！